令和5年度　日本電子専門学校
第一回学校関係者評価　報告書

評価対象期間　　自：令和４年４月　１日
　　至：令和５年３月 31 日

令和５年７月

学校関係者評価委員会

目　　次

Ⅰ　学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2. 学校関係者評価委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
3. 学校関係者評価委員会の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・4
4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方　・・・・・・・・6

Ⅱ　学校関係者評価報告書の見方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

Ⅲ　学校関係者評価委員会　評価結果報告

総評　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

項目別評価結果

○教育重点項目　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

○評価項目の達成及び取組状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

基準２　学校運営
基準３　教育活動
基準４　学修成果
基準５　学生支援
基準６　教育環境
基準７　学生の募集と受入れ
基準８　財務
基準９　法令等の遵守
基準１０　社会貢献・地域貢献

○総合評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

Ⅳ　学校関係者評価委員会議事録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

１．全体会自由意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
２．分野別分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

議事録
①　情報分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
②　ネットワーク・セキュリティ分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・32
③　ビジネス分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
④　電気分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
⑤　電子分野分科会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
⑥　ゲーム分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
⑦　アニメ分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
⑧　デザイン分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
⑨　CG・映像分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
⑩　モバイル・AI 分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51

Ⅰ　学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

１）目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

２）基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

３）委員会運営

令和５年度における学校関係者評価委員会を以下のように年２回の開催とする。

添付：自己点検評価

① 第１回目(7 月)に実施する委員会は、令和４年度（前年度）の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
また、令和５年度に定めた、重点的に取組むことが必要な目標・計画を発表する。

② 第２回目（11 月）に実施する委員会は、令和５年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2.学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、在学生に委嘱した。

属 性	氏　　名	所　　属	役　　職
企　業	鈴木 周祐	株式会社ぴえろ	人事総務部 リーダー
	井沢 祐	株式会社ファンコーポレーション	研究開発部 ディレクター
	木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	エグゼクティブ・ アドバイザー
	舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン	社長室長
	渡邉 登	合同会社ワタナベ技研	代表
	相原 弘明	ストーンビートセキュリティ株式会社	セキュリティ技術部　総括部長
	伊藤 好宏	JTP 株式会社	技官
職能団体	篠原 たかこ	CG-ARTS （公益財団法人画像情報教育振興協会）	教育事業部 事業部長
	満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構	理事
	西郷 直紀	東京商工会議所　新宿支部	事務局長
	原 洋一	一般社団法人ソフトウェア協会	理事・事務局長
	米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	交流推進本部 人材交流委員会 委員
高校教員等	勝間田 清一		
	品田 健	聖徳学園中学・高等学校	学校改革本部長
	横田 えりか	株式会社ウィザス	教育運営部 教務 DX 支援室
日本語学校	会田 由紀子	東京ギャラクシー日本語学校	教務部　副部長

卒業生	谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	ソリューション統括本部 ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾏﾈｰｼﾞｬｰ
	中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会	副会長
ご家族・保証人	大山 宗良		
	髙橋 美登里		
	岸本 美香		
地域住民	原田 識義	百人町西町会	会長
在校生	岡本 沙織	コンピュータグラフィックス研究科	3 年生
	宮下 好葉	コンピュータグラフィックス科	2 年生
	水山 颯香	ゲーム企画科	2 年生
	森 碧大	電気工事技術科	2 年生
	武藤 遼河	高度電気工学科	3 年生 学生自治会 会長
	福田 るあ	コンピュータグラフィックス科	1 年生
	渡邉 紗羽	コンピュータグラフィックス科	1 年生
	江藤 海羽	ネットワークセキュリティ科	1 年生

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

１）令和５年度第一回学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時　：　令和５年７月 10 日（月）　13：30 から 16：45

場所　：　日本電子専門学校 メディアホール

２）学校関係者評価委員会実施方法

新型コロナウィルス感染症の拡大を鑑み、対面及びオンライン会議システム（Zoom）を利用し、ハイブリッド運用にて実施した。

３）学校関係者評価委員会　進行

（１）事務連絡（スケジュール、事前配布資料確認）　13：30～

（２）校長挨拶

（３）出席者紹介（日本電子教職員、評価委員）

（４）評価方法説明

（５）議長（委員長）選出

（６）学校関係者評価委員会開始　13：50～

自己評価結果の解説とその評価

〇教育重点項目

〇学校運営

〇教育活動

〇学修成果

〇学生支援

・・・　評価結果の判定（評価シート記入）　・・・

〇教育環境

〇学生の募集と受入れ

〇財務

〇法令等の遵守

〇社会貢献、地域貢献

・・・　評価結果の判定（評価シート記入）　・・・

（７）令和５年度重点項目発表　15：00～

（８）意見交換　15：10～15：30

（９）分科会　15：45～16：45

企業、団体の委員においては、以下の分野別に分科会を行った。

① 情報分野分科会

② ネットワーク・セキュリティ分野分科会

③ ビジネス分野分科会

④ 電気分野分科会

⑤ 電子分野分科会

⑥ ゲーム分野分科会

⑦ アニメ分野分科会
⑧ デザイン分野分科会
⑨ CG・映像分野分科会
⑩ モバイル・AI 分野分科会

4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

１）自己点検・自己評価の実施

日本電子専門学校は、第一回学校関係者評価委員会の実施に先立ち、「職業教育評価機構が定めた専門学校等評価基準（Ver.4)」の評価基準に則った自己点検・自己評価を実施した。

点検項目は、令和４年度における「教育重点項目」９項目及び、「評価項目の達成及び取組状況」10 分類 65 項目であり、合計 74 項目である。

『令和５年度自己点検評価報告書』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0）を示した。また、①課題、②今後の改善方法、③特記事項を記載し、学校関係者評価委員に提出した。

２）自己点検・自己評価結果の報告

学校関係者評価委員会では、『令和５年度自己評価報告書』を用いて、自己評価で満点とならなかった項目、昨年度から自己評価が向上した項目について報告し、評価をお願いした。

4. 学習成果　評価と今後の改善方法

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当：0				
4-13-25	就職率の向上が図られているか	④	3	2	1	0
4-14-26	資格・免許取得率の向上が図られているか	4	③	2	1	0
4-15-27	卒業生の社会的評価を把握しているか	④	3	2	1	0

①課題

4-14-26 [redacted]。

②今後の改善方法

4-14-26 [redacted]

③ 特記事項

4-15-27 [redacted]

３）自己点検・自己評価結果の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、自己評価報告書の内容及び、自己評価結果の評価方法を理解した上で、日本電子専門学校が行った自己評価結果について「適切」または、「不適切」の２分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会　評価記入シート」のコメント欄に入力した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。

４）分野別分科会の実施

学校関係者評価委員会の一環として、学科の教育内容や運営に対する意見を聴取することを目的として､分野別分科会を実施した｡分野別分科会には、企業、団体の委員が参加し、日本電子専門学校からは、教育部署長ならびに学科長が参加した。

分野別分科会で意見を聴取し、今後の学校運営に反映させるとともに、教育課程に関する意見は、教育課程編成委員会に申し送ることとした。

分野の別は、以下の通りである。

① 情報分野分科会
② ネットワーク・セキュリティ分野分科会
③ ビジネス分野分科会
④ 電気分野分科会
⑤ 電子分野分科会
⑥ ゲーム分野分科会
⑦ アニメ分野分科会
⑧ デザイン分野分科会
⑨ CG・映像分野分科会
⑩ モバイル・AI 分野分科会

Ⅱ　学校関係者評価報告書の見方

１．自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 28 名が記述した評価記入シートより､評価基準の｢適切｣記入数、｢不適切｣記入数を集計しパーセント表示した。

２．委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が入力したコメントを項目毎にまとめた。

３．分科会の意見

分野別分科会で意見交換された内容や、具体的な学科に対する意見・改善提案を議事録｢学校関係者評価委員会分野別分科会｣にまとめた。

Ⅲ　学校関係者評価委員会　評価結果報告

総　評

本委員会は、日本電子専門学校の学校運営に関する自己評価の結果について、学校関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性、透明性を高め、理解促進、連携協力によって学校運営の改善に役立てていただくことを目的としています。

第一回目（7 月）に実施する委員会は、「『令和 5 年度自己評価報告書』を用いて、日本電子専門学校から報告のあった項目を評価する」ことになっており、この規定に従い、学校関係者評価委員会を令和 5 年 7 月 10 日に実施しました。
今回の学校関係者評価委員会においては、新型コロナウィルス感染の危険性を鑑み、対面とオンラインのハイブリッド運用で実施し、日本電子専門学校の担当者から報告を受けました。

評価については、評価委員の委嘱を受けた、関係する企業、業界団体、卒業生、ご父母、地域住民、高等学校教員等（大学、日本語学校含む)、在学生の参加委員 28 名が、それぞれの立場から、学校担当者からの報告に基づき、項目ごとにその取り組みに対する自己評価が「適切」であったか「不適切」であったかを判断し、コメントを記載しました。

今回は、「職業教育評価機構が定めた専門学校等評価基準（Ver.4)」の評価基準に則った自己点検・自己評価が実施され、自己評価で満点とならなかった項目、昨年度から自己評価が向上した項目について報告があり、全体的に例年同様厳しい評価となっていたようです。その日本電子専門学校の姿勢を、多くの委員が認め、支持しています。
また、コロナ禍が続く中においても、常に学生最優先で新たな取組みの実施や改善改革に取り組まれている姿勢も評価しています。

今後も、学校の課題を解決するために、評価委員の意見を反映して頂くとともに、日本電子専門学校及び専門学校全体の教育の質を高めるような取組みを継続し、実施して頂くことをお願い致します。
我々評価委員は、引続き協力することをお約束し、学校関係者評価委員会評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
議長　舟山　大器

令和５年度　日本電子専門学校　自己評価報告

教育重点項目

評価結果	適切：26 93%	不適切：2 無回答：0

コメント欄

① 産業界のニーズをキャッチする形での対応という点がよい。（鈴木）←**適切**

② 学生に対しての評価については、直接授業に関わらせていただいたものとしては、5段階評価が少々ざっくりとしていて難しいと感じていたところ、今回改定されるとの計画があるとのことで大変期待するところです。（木下）←**適切**

③ 教育重点項目に関しては、世の中の変化やニーズに合わせ、学校内外の様々な知恵や知識を活用し進捗していることが理解できた。自己評価は適切だと考えられる。（舟山）←**適切**

④ 非常にプロアクティブに考え、行動に移されていると考えております。（伊藤）←**適切**

⑤ 真摯に取り組んでいる姿勢が見られ、実行している。（篠原）←**適切**

⑥ いつもながら、素晴らしい取り組みを着々と進行されている印象です。社会人基礎力はとても重要なものと考えていますし、それを産業界と擦り合わせながら進めていただくことは良いと思います。（原）←**適切**

⑦ 第三者評価修了証を受理している（中村）←**適切**

⑧ 学生に対し手厚いメンテをしていると思います。（勝間田）←**適切**

⑨ P-TECHの取り組みは中高から見て興味あります。（品田）←**適切**

⑩ 学科ごとに評価基準を再構築する、企業様に現在の必要な能力について聞き取りをし、それを反映した学修成果を可視化するように取り組む、新設学科を検討するなど、時代の変化に柔軟に対応していく取り組みは非常に魅力的であると思います。（会田）←**適切**

⑪ 0-1-3にて「魅力のある、募集力の高い状態」との記載がありますが、産業会が欲しがる人材像と学生から見た魅力（教育内容）にはギャップが存在すると思います。産業会が欲しがる人材像が新設学科開発の中で調査、検討項目としてあがっているか気になりました。（谷）←**適切**

⑫ クラス内組織に向けた取り組みとしてクラス委員長が創設されました。昨年度に引き続き今年もクラス内で活動をしておりますが昨年実施されていたクラス委員の定例会は、今年度は実施しないのか疑問に感じました。（水山）←**不適切**

⑬ 学習成果の再設定について、学科ごとに評価項目を設ける為、明確で細かな評価基準の設定が必要だと思います。（森）←**適切**

⑭ 学生自治会実施項目の不備（日専祭の計画・運用はしていない）、クラス委員長定例会の司会進行をしたが、記載無し。スポーツフェスティバルの人員の誤った人数を報告、又、自主的に行っている項目として、学生自治会が挙げられているが、学校側からやってくれないかと半強制的に言われたものを多々あるため、学生自治会の代表としては、評価4は不適切であると判断。（武藤）←**不適切**

⑮ ズーム授業の確立やそれに伴った教員の研修は、在校生として信用につながります。また、成績の5段階評価をレーダーチャートに変えたことは、自他共に得意、不得意が分かりやすくなるいいシステムだと思います。（渡邊）←**適切**

⑯ コロナなどにより出た課題を解決していき、それが維持できているため適切だと感じた。（江藤）←**適切**

評価項目の達成及び取組状況

基準2　学校運営

【2-3】事業計画

2-3-6　理念等を達成するための事業計画を定めているか

評価結果	適切：28 100%	不適切：0 無回答：0

コメント欄

① 各項目に重点項目、具体的対策を設けているので適切だと思います。（渡邊）←**適切**

② 適切に課題に取り組まれていると思います。（鈴木）←**適切**

③ 第3者評価への取り組みのみならず、結果をしっかり出せていることは大変すばらしいと思います。（木下）←**適切**

④ 事業計画は特に問題ないかと考える。（武藤）←**適切**

【2-7】情報システム

2-7-11　情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか

評価結果	適切：27 96%	不適切：1 無回答 :0

コメント欄

① 情報システム化の取り組みはしっかりされていると思います。世の中ランサムウェア等のインシデントがさまざまな場所でおきていますので、バックアップも含め気をつけて欲しいと思います。（原）←**適切**

② 最新の情報システムを積極的に取り入れている（中村）←**適切**

③ 各方面で情報のシステム化が進んで業務や学生へのサービス他、効率化が図れると思います。願書のWeb化今時ですので良い方向と思います。しばらくは、紙ベースの願書と並行したほうが良いかもしれません。（勝間田）←**適切**

④ 客観的な評価（システム利用者の生の声）でしょうか。結構な業務領域についてシステムを導入されたと思うので問題や課題が発生したと想定されますが、資料に記載がないためこのような疑問を持ちました。（谷）←**適切**

⑤ 証明書Web発行システムについて、学生としてはいつでも発行ができるのは非常にありがたいです。ですが利用していく中で学校側が想定していない利用方法をした学生がいたりなど、まだまだマニュアルに足りていない部分を感じるので利用者である「学生」と管理をしている「学校」での意見交換を行い、さらにより良いシステムへと進化をしていく必要があると

感じました。（水山）←**適切**

⑥ 最新のシステムをよく活用出来ていると感じた。（福田）←**適切**

⑦ 様々なシステムに取組み、ペーパーレス、効率化を実行できていると思います。（渡邊）←**適切**

⑧ オンラインの取り組みなど様々なことが業務システム等によりスムーズに改善されていたため適切だと感じた。（江藤）←**適切**

基準 3　教育活動

【3-9】教育方法・評価等

3-9-17　授業評価を実施しているか

評価結果	適切：27 96%	不適切：0 無回答：0

コメント欄

① 在校生にアンケートを取り、数値化もしているので適切だと思います。（渡邊）←**適切**

② 一部オンライン授業で、すべての参加の顔が見えているか、またコミュニケーションの取れ具合はどうか、は少し気になるところです。（木下）←**適切**

③ 遠隔化の為のガイドライン素晴らしいですね！（原）←**適切**

④ 今後とも続けていただきたいです。（森）←**適切**

⑤ 授業評価として、学校全体の評価は良かったが、私たちの高度電気工学科、電気工学科では評価の低かった項目もあった。そのため、学科ごとの評価の提示をお願いしたい。それに伴い、改善もお願いしたい。（武藤）←**適切**

⑥ 教材や資料等を上手く活用出来ているとは思うが、全ての授業において生徒にやる気を出させる工夫などはされているとは言い難いと感じています。（福田）←**適切**

⑦ オンライン授業は問題なく進んでいると感じている。（江藤）←**適切**

3-12-22　資格・要件を備えた教員を確保しているか

評価結果	適切：28 100%	不適切：0 無回答：0

コメント欄

① 資格・免許を備えた教員の確保については、世の中の潮流で学科にもよるが、専任教員の採用がかなり厳しい部分があると思われる。特に専門学校は世の中の最新トレンドに取り組む傾向が強いため、人手不足の問題は今後益々ついて回ると思われるが、頑張って欲しい。（舟山）←**適切**

② クリエイター分野は不足人数が明確でわかりやすかったです。（米井）←**適切**

③ 電子方面は技術の進歩がはやいので教員を配置採用が大変です。専任教員の時間数週１０コマ前後と結構多いですね。（勝間田）←**適切**

④　教員の確保につきましては、条件に合う方を探し、採用に至るまで、長い時間がかかるかと思います。それでも、必要数を確保し、担任の先生の数を増やすことができたのは担当者の方の地道な努力の成果だと思います。（会田）←**適切**

⑤ 分野別の人材確保について適切に課題認識、対応、評価されていると思います。（谷）←**適切**

⑥ 資格の件に関しては、問題ないと判断。（武藤）←**適切**

⑦ 専任教員を多数確保できていることは在校生も理解できていると思います。また、より多の専任教員を確保できるよう明確な解決方法が明記されているので適切だと思います。（渡邊）←**適切**

⑧ 資格も教員から資格の話をたくさん聞くことができるため、問題ないと感じている。（江藤）←**適切**

基準 4　学修成果

【4-13】就職率

4-13-25　就職率の向上が図られているか

評価結果	適切：28 100%	不適切：0 無回答：0

コメント欄

① コロナ時代を反映しオンライン就職活動支援や、求人企業を各種イベントに招致するなどし、一層の努力が見られる、結果非常に高い就職率を更新していることがわかり適切な評価といえる。（舟山）←**適切**

③ しっかり対応きていると感じています。業界団体を通じての取り組みも可能だと思いますので、必要に応じてご連絡ください、就職率は重要な項目だと思います。引き続き、よろしくお願いします。（原）←**適切**

④ 具体的な数値として成果があらわれている。（中村）←**適切**

⑤ 専門学校は就職率が重要視されます。その点、全学科 94.3%とは良いほうだと思います。就職イベント積極的に開催し、さらにアップするとよいです。（勝間田）←**適切**

⑥ 手厚いご対応をされていることがよくわかりました。（品田）←**適切**

⑦ 就職率の高さは安定していらっしゃるので、留学生に対しても安心して貴校を勧めることができます。（会田）←**適切**

⑧ 将来的には「基準 4. 学修成果」という観点において「ディプロマポリシーに基づいた学修成果」に基づいて評価される項目が追加されることを想定しております。（谷）←**適切**

⑨ 就職率については全体だけでなく各学科ごとに細分化すると、新たな課題が見つかると思います。教員の確保については長期的なものになりますが、育てていくのはどうでしょうか。（森）←**適切**

⑩ 就職率、資格取得率は問題ないと判断。（武藤）←**適切**

⑪ 前年度と比べて向上しているので適切だと思います。（渡邊）←**適切**

⑫ 就職率、資格の取得率に至っては学生のやる気という面もあるため、いかにそのモチベーションを引き出すかという点が課題になっていると思う。（江藤）←**適切**

【4-14】資格・免許の取得率

4-14-26　資格・免許取得率の向上が図られているか

評価結果	適切：27 96%	不適切：1 無回答：0

コメント欄

① 成果は着実に出ているので、少し厳しい評価かな(4 でも良いような)と思いますが、取り組み課題としてのご認識を考慮すると適切だと考えます。（鈴木）←**適切**

② 通常の授業にとどまらない学習の機会を創出している取り組みはとても良いと思います。資格等の取得の必要な職種を目指す学生にとっては大切なものになると思われます。（木下）←**適切**

③ 資格免許取得の向上に関しては、第３者からみると優秀な成績をいえる。自己評価はやや厳しめかと思われる。（舟山）←**適切**

④ 資格取得や学習意欲向上についてご協力できることがあればと思っています。（篠原）←**適切**

⑤ 資格取得は、留学生の資格取得に対しては、フォローをしていただくこともあるかと存じす。（会田）←**適切**

⑥ どのように資格取得率を 100%に近付けていくか今後の対策が重要だと感じた。（福田）←**適切**

⑦ 学科ごとに各項目の減少、増力を調査しており、それに伴った教育ができていると思います。（渡邊）←**適切**

基準 5　学生支援

【5-17】中途退学への対応

5-17-29　退学率の低減が図られているか

評価結果	適切：21 75%	不適切：7 無回答：0

コメント欄

① あるべき原則は対面であると思います。対応できずに出席率が低減するというのは、そもそもな気がします。業界にもよりますが、産業界においては在宅勤務が認められない場合もありますので、その点は向き合い方が難しいかなと思いました。（鈴木）←**適切**

② 退学率の低減に関しては、少し残念な結果だったが、コロナ後の影響から考えるといたし方ない部分もあると思われる、退学に関してはゼロにはならないものであるが、今後もあきらめず頑張っていただきたい。（舟山）←**適切**

③ 中退の学習理由による退学について、コロナ後遺症の影響もあるように思います。知人の御子息で後遺症によって通学困難となっている人がいます。調査してみてはどうでしょうか。（渡邉）←**適切**

④ 中途退学への対応については、コロナ禍の影響により、コミュニケーション能力の低下などにより、やむを得ない部分があるのではないかと考えます。（相原）←**適切**

⑤ 退学率の低減は厳しめの評価かと思いますが、もしかするとメンタリティの問題もあるのではないかと思います。健保組合でもメンタルを理由の傷病手当申請が増えています。退学率とメンタルの関係を見るとわかるのではないかと思います。（原）←**適切**

⑥ 数値が下がったというよりも通常に戻ったといえるので、「③ほぼ適切」でよいのではないかと思います。（米井）←**適切**

⑦ 出席率以外の退学要因の分析も必要ではないか。発生数が多い事例についての深堀があってもよいのではないか。（中村）←**適切**

⑧ 退学率、コロナ禍で将来へ希望の気持ちが薄らぎ、他の分野に気持ちが行ってしまったかもしれません。コロナ禍が薄れ学校が正常に戻りつつあるので、次年度から向上すると思います。そのなることを願います。（勝間田）←**適切**

⑨ オンライン授業は参加率（出席率）が高くなるという利点はあるかもしれませんが、対面で出席した方が習熟度は上がるのではないかと考えられます。出席率に関しては、出席不良者は、こまめに出席率を提示し、指導していく必要があるかと思います。（会田）←**適切**

⑩ 担任の個別面談やコミュニケーションをもう少し増やした方が、安心が得られると思う。（岡本）←**適切**

⑪ 評価は妥当であると判断。（武藤）←**適切**

⑫ まだまだ中途退学の対策が間に合っていないように感じた。学習面での理由による中途退学は不安の抱えている学生向けのサポートの時間を設けることにより少しでも緩和されるのではないかと感じた。（福田）←**適切**

⑬ 退学理由の調査や割合を出すことは低減しようという意思がみられます。（渡邊）←**適切**

⑭ 退学率に関しては学科ごとでの差があるのではと感じている。（江藤）←**適切**

【5-20】保護者との連携

5-20-36　保護者との連携体制を構築しているか

評価結果	適切：28 100%	不適切：0 無回答：0

コメント欄

① 退学や休学防止の有効な手段としての父母との連携はしっかりされていると思う。（舟山）←**適切**

② オンラインに慣れてないであろう親世代の方にきちんと対応できるよう対策をしているので適切だと思います。電話対応やメールは特にいいと思います。（渡邊）←**適切**

③ また保護者との連携はまだまだ改善の余地があると感じた。再教育プログラムに関してはこれからの活動次第だと思う。（江藤）←**適切**

【5-21】卒業生・社会人

5-21-38　産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取組んでいるか

評価結果	適切：28 100%	不適切：0 無回答：0

コメント欄

① 確かに再教育といったことはないので、アンケート結果に基づく対応は適切かと思います。本論とは離れるかもしれませんが、ただ、一方で社内における全社員を対象とした教育プログラムは検討しているので、ご協力いただけるようなものがあれば有り難いとも感じます。（鈴木）←**適切**

② 対策・取り組みは妥当と思われ特にコメントはありません。（木下）←**適切**

③ 卒後の再教育については全く新しい挑戦であり、今すぐということは難しくても、今後追いかけていく姿勢には確かに必要だと思われる。（舟山）←**適切**

④ 今の段階から「はい」を選択している企業に対して意見をもらうべきだと感じました。もし既にいただいているのであれはその一例を紹介するとより評価結果がわかりやすくなると感じました。（水山）←**適切**

⑤ 企業側のことも思案している上で、どのようにすべきかを愚痴的に明記されているので適切だと思います。（渡邊）←**適切**

⑥ 再教育プログラムに関してはこれからの活動次第だと思う。（江藤）←**適切**

基準 6　教育環境

【6-23】学外実習・インターンシップ等

6-23-41　学外実習、インターンシップ、海外研修の実施体制を整備しているか

評価結果	適切：28 100%	不適切：0 無回答：0

コメント欄

① インターンシップについては、入社前研修ではないものの、弊社においても申し込まれる学生は優秀な方が多いので、今後も推進していただければと思います。（相原）←**適切**

② 海外研修ができたことは素晴らしいです。（原）←**適切**

③ 学生の方々はインターンシップや海外研修など、授業の外から得るものは大きいと存じます。（会田）←**適切**

④ 価は適切と判断。（武藤）←**適切**

⑤ 在校生として学外実習やインターンシップの充実さを理解したうえで、学校側の意向も伝わりました。（渡邊）←**適切**

⑥ コロナが落ち着いてきているため、海外研修はこれからまた再開していけたらと思う。防災に関してはマニュアルが確立されているため適切だと感じた。（江藤）←**適切**

【6-24】防災・安全管理

6-24-42　防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか

評価結果	適切：28 100%	不適切：0 無回答：0

コメント欄

① 今後大きな震災などが起きる可能性もあり、学生や職員を守るべく防災計画など今後もしっかりお願いします。（舟山）←**適切**

② 消防計画に基づき、適切に運用されている。（中村）←**適切**

③ いろいろ配慮していると思います。（勝間田）←**適切**

④ 施設のメンテナンスがしっかりされていて、耐震化にも対応しているのにも安心できる。（高橋）←**適切**

⑤ 新宿区警察署の方による講演会に参加いたしましたがボランティアについての知識を深められると共に学生は活動記録にボランティアについて記載されることで取り組みの可視化がされ、さらに講演会を実施している側としてはボランティアについて知ってもらえる Win-Win の関係で非常に良い取り組みだと感じております。（水山）←**適切**

⑥ 在校生はホームルームの時間を使って受講させたり、実際に消防署の方をお呼びすることは適切だと思います。（渡邊）←**適切**

基準 7　学生の募集と受入れ

【7-25】学生募集活動

7-25-44　高等学校等接続する教育機関に関する情報提供に取組んでいるか

評価結果	適切：27 96%	不適切：1 無回答：0

コメント欄

① 全体の結果は数値化されているものの、各種媒体での取り組みが、どのような結果を生んだのか、結果が出なかったものはあるのかについての調査もあるとさらに良いのではないか、と思いました。（木下）←**適切**

② 退学要因の深堀が出来た場合、入学を検討している学生に対して退学防止に向けたメッセージ発信を検討しても良いのではないか。（中村）←**適切**

③ 学科が多岐にわたり、説明すべき量も多いかと存じますので、誰もが同じ質で説明ができるよう資料を整えることは大切なことであると存じます。（会田）←**適切**

④ 評価は適切と判断。（武藤）←**適切**
⑤ Web や紙においてきちんと明記されていると思いました。（渡邊）←**適切**

7-25-45　学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか

評価結果	適切：28 100%	不適切：0 無回答：0

コメント欄
① オープンキャンパスにおいては産学連携をアピールするために企業によるセミナー的なものを実施する学校もあります。保護者の皆様からすると、一番気になるのは就職実績に関わるところかと思いますので、ご検討いただくのも面白いかもしれません。（鈴木）←**適切**
② 人口減で参加者が減ることは仕方がないので、「④適切」で良いのではないでしょうか。（米井）←**適切**
③ 他の専門学校との比較も行った方が良いのではないか。（中村）←**適切**
④ 人口減少、大学入学が平易化で学生募集が大変な時期です更に広報募集活動を努力してください。（勝間田）←**適切**
⑤ 少子化をうけて学内の説明会の回数を増やす点で、適切だと思いました。（渡邊）←**適切**
⑥ 実際に高校時代に募集活動を何回も行っており、その成果も出ているため適切だと感じた。（江藤）←**適切**

基準 8　財務

【8-31】財務情報の公開

8-31-55　私立学校に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか

評価結果	適切：28 100%	不適切：0 無回答：0

コメント欄
① 特に問題はありませんでした。（木下）←**適切**
② 分かりにくい財務情報をテキスト中心から、図表やグラフや色付けなどで分かりやすくされている点は大変良いと思われます。（舟山）←**適切**
③ 工夫をされているので良いと思います。（原）←**適切**
④ 良いと思います。（勝間田）←**適切**
⑤ わかりやすく工夫されている所が良い。（高橋）←**適切**
⑥ 評価は適切と判断。（武藤）←**適切**
⑦ 前年度からの目に見える改善がされておりとても良いと感じた。（福田）←**適切**
⑧ 明記したうえで理解しやすいように変更した点が良いと思いました。（渡邊）←**適切**

⑨ 財務の面は素人目だとわからない箇所がたくさんあるため、その点が改善されていたのはとても良いと感じた。（江藤）←**適切**

基準 9　法令等の厳守

【9-33】個人情報保護

9-33-57　学校が保有する個人情報保護に関する対策を実行しているか

評価結果	適切：28 100%	不適切：0 無回答：0

コメント欄

① ネットワーク対策は専門家が入っていることで安心感はあると思いましたが、学生に対する教育・順守することへの習熟度合が若干気になりました。（木下）←**適切**

② 個人情報保護に関しては、専門家に相談するなど、しっかりと対応されていると思われる。自己評価は適切だと思われる。（舟山）←**適切**

③ 個人情報に対する事故は大きな問題になりますので、継続的な対応をお願いいたします。（相原）←**適切**

④ ランサムウェアによる脅威も広がっているので気をつけてください（原）←**適切**

⑤ 万が一、個人情報保護法への抵触事例が生じてしまった場合についての、対応規程、発生時におけるリスクヘッジ（保険加入）はとっているか？（中村）←**適切**

⑥ 今後とも個人情報は増えてゆくと思われます。対策を強化してください。（勝間田）←**適切**

⑦ 評価は適切と判断。（武藤）←**適切**

⑧ 慢心せずにこれからも常に新しいものを検討、実施しようとする姿勢が良いと思いました。（渡邊）←**適切**

⑨ 学校専用ネットワークだったり、セキュリティの面で確かな向上が見えていたため適切に感じた。（江藤）←**適切**

基準 10　社会貢献・地域貢献

【10-36】社会貢献・地域貢献

10-36-64　国際交流に取組んでいるか

評価結果	適切：28 100%	不適切：0 無回答：0

コメント欄

① 良い取り組みをされているとおもいましたので特にコメントはありません。（木下）←**適切**

② 韓国台湾に独自の事務所を置いている利点を生かし国際交流、国際貢献に力を入れていることが理解できました。今後より国際化が必要となってきますので、今後も取組を続けてください。（舟山）←**適切**

③ 海外の学生との学術研究、文化交流は、学生にとっても得るものが多いかと思います。引き続き充実させていただければと思います。（相原）←**適切**

④ 良く努力しています。（勝間田）←**適切**

⑤ 韓国・台湾にある独自の事務所を活かした国際交流だけでなく、教育・技術の質の向上などに活かしたり、もっと全校生徒にアピールすることで国際的に学ぶ場があることを宣伝して欲しいです。それが結果的に学習意欲等に繋がっていくと思います。（森）←**適切**

⑥ 評価は適切と判断。今後も国際交流の活性化に尽力していただければと思う。（武藤）←**適切**

⑦ 台湾からの体験入学の受け入れにより、体験型ブースの出店という大きな利点を得られており良いなと感じた。（福田）←**適切**

⑧ 町会、商店に会費を拠出したり、町会との関係がしっかりあり、海外にもあるのがすごいと思いました。これからも国際交流の充実を目指している点が良いと思いました。（渡邊）←**適切**

⑨ 国際交流も実際に交流が行われている実績があるため適切だと感じた。（江藤）←**適切**

総合評価　【学校の改善に資するご意見】

評価結果

コメント欄

① 全体的に課題に前向きに取り組まれていると思います。（鈴木）

② 細かいところまで丁寧に取り組まれていて素晴らしいと思います。私共ゲーム開発業界においては近年状況が大きく変わってきていると感じています。それに伴って求める人材も変わってまいります。ニーズをとらえて柔軟に教育方針を調整していってもらえたらと思います。（井沢）

③ 長時間の評価会でのご報告、大変お疲れさまでした。貴重な取り組みえを拝聴させていただき、ありがとうございました。全体的に概ね以前より良い結果につながる取り組みをされており大変すばらしいと思います。初手の報告にありました学生の授業に対する評価については、実際に授業に関わらせていただいた経験から、少々点数付けが悩ましい、且つ難しい部分がありましたので、順次新しいシステムに改定されるとのことで、大いに期待するところです。こと（木下）

④ 毎回改善を続け、日本電子専門学校の素晴らしいバージョンアップにつながっていると思います。今後もがんばってお願いいたします。（舟山）

⑤ 初めて参加させていただきました。学校におけるこのような取り組みは非常に重要であることを感じました。（相原）

⑥ 全体を通して、評価は適切であり、自らを律する姿勢が素晴らしいと思います。また、受け身ではなく、能動的に学校を改善していこうという姿勢が素晴らしいと思います。引き続き期待しておりますので、よろしくお願いいたします。（伊藤）

⑦ 日々の取り組みや、編成委員会・学校評価委員会を通して、先生方や運営の皆さまと接しているなかで、日頃から外部の意見を取り入れ、学生の育成に真摯に取り組む姿を拝見しております。今後とも引き続き信念のある経営に期待しております。（篠原）

⑧ 全体的には毎年評価委員会に出ていますが、さまざまな取り組みをしっかりされていると感じています。コロナ禍で学生のメンタルがとても心配です。企業にとっても在宅勤務によってメンタルが厳しいと言う話が多くありますので、学生のメンタルをどのようにサポートするかを考えていただければと思います。われわれソフトウェア業界では多くの企業が人手不足が続いていますので、ぜひ、連携していければと思っていますので、よろしくお願いします。今日は最後まで聞けずにすみませんでした。（原）

⑨ 今後、少子化で学生対策がさらに大変になるとおもいますが、教職員皆さん多方面で頑張っていると思います。（勝間田）

⑩ コロナ禍明けで生徒対応などご苦労されていると思いますが、皆様真摯に取り組まれていることが伝わってまいりました。（品田）

⑪ 日本語学校への学生募集につきましては、当校のリクエストに応じてオープンキャンパス、特別授業の実施など、非常に手厚く対応していただいていることに感謝

申し上げます。出願前の早い時期に実施していただくことにより、学生たちは目標をもって、日々の学習に取り組むことができております。新設学科の創設も含め、常に新しいことに挑戦し、カリキュラム等の更新もされていることも含め、学生たちに勧めてまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。（会田）

⑫ ガイドラインの項目だけでなく独自の重点項目を設け評価を実施しており良くしていこうという意気込みを強く感じました。（谷）

⑬ 学校の日々の努力を評価します。これかも頑張ってください。（原田）

⑭ 学生自治会やクラス内組織など、学生同士の交流の場、機会がもうけられ、とても良いと思いました。また、分野・職種別の交流などもあれば、モチベーションの上昇や、意見交換につながると思うので検討していただきたいです。今後もオンラインと対面を継続していただきたいです。（岡本）

⑮ 遠隔授業の学習環境につきまして、昨年よりも充実していることを、実際に授業を受けて一貫しております。対面授業に欠席した場合の欠席者へのフォローが全く感じられない授業がごくわずかですがあるように感じました。授業への遅れが退学につながると考えている為、学校全体で確認していただきたいです。本日はありがとうございました。（宮下）

⑯ NEXT10 の明確化、キャリア教育の明確化を迅速にお願いしたい。キャリセン教育とは何なのか話せる教職員の方々、また学生がほとんど居ないのが現状であると私は感じている。そのため、キャリセン教育とは何なのか。具体的にキャリセン教育を目標として何があるのか。を明確にした上で私たち学生に提示して頂きたい。以上、よろしくお願いします。（武藤）

⑰ 中途退学の件を一番に改善すべきだと感じた。（福田）

⑱ 改善されるべき箇所をすぐに改善している点はとても良いと感じた。しかし、資格の面や就職の面、退学の面はどうしても学生のモチベーションが関わってくるため、その箇所の改善点だったり、成果を出せると良いのではないかと感じた。（江藤）

Ⅳ　令和５年度第一回学校関係者評価委員会議事録

日　　時：令和５年７月 10 日　13：30～16：45
場　　所：日本電子専門学校　メディアホールおよびオンライン（Zoom）
学校関係者評価委員：

名　前	所　属　（役　職）	区分
鈴木　周祐	株式会社ぴえろ（人事総務部リーダー）	企　業
井沢　祐	株式会社ファンコーポレーション （研究開発部　ディレクター）	
木下　幸弘	株式会社ジェイスリー （エグゼクティブ・アドバイザー）	
舟山　大器	株式会社横浜環境デザイン（社長室長）	
相原　弘明	ストーンビートセキュリティ株式会社 （代表取締役）	
渡邉　登	合同会社ワタナベ技研（代表）	
伊藤　好宏	JTP 株式会社（技官）	
篠原　たかこ	CG-ARTS（教育事業部　事業部長）	職能団体
原　洋一	一般社団法人ソフトウェア協会 （理事・事務局長）	
米井　翔	一般社団法人組込みシステム技術協会 （交流推進本部　人材交流委員会　委員）	
中村　昭紀	東京商工会議所新宿支部 事務局次長	
勝間田　清一		高校教員等
品田　健	聖徳学園中学・高等学校 学校改革本部長	
横田　えりか	株式会社ウィザス 教育運営部　教務 DX 支援室	
会田　由紀子	東京ギャラクシー日本語学校（教務部　副部長）	日本語学校

谷　伸城	株式会社アプリケーションプロダクト （ソリューション統括本部プロジェクトマネージャー）	卒業生
大山　宗良		ご父母
髙橋　美登里		
岸本　美香		
原田　識義	百人町西町会（会長）	地域住民
岡本　沙織	コンピュータグラフィックス研究科（3 年）	在校生
宮下　好葉	コンピュータグラフィックス科（2 年）	
水山　颯花	ゲーム企画科（2 年）	
武藤　遼河	学生自治会代表　高度電気工学科（3 年）	
森　碧人	電気工事技術科（2 年）	
福田　るあ	コンピュータグラフィックス科（1 年）	
渡邊　紗羽	コンピュータグラフィックス科（1 年）	
江藤　海羽	ネットワークセキュリティ科（1 年）	

日本電子専門学校参加者：

名　前	役　　職
船山　世界	校長
杉浦　敦司	副校長
五十嵐　淳之	クリエイター教育　部長
大川　晃一	エンジニア教育　部長
高橋　陽介	学事部　部長

木村　佑	広報部　部長
井上　直樹	キャリアセンター　センター長
大桃　洋	総務部　部長
内田　満	総務部
丸山　治	人事部　部長
君塚 信和	管理部　部長
長野 善朗	財務経理部　部長

進行：

13:30	１．開会（挨拶、配布資料確認）	五十嵐
	２．校長挨拶、学校関係者評価全体説明	船山
	３．学校側参加者紹介、学校関係者評価委員紹介	五十嵐
	４．学校関係者評価の進め方説明	五十嵐
13:50	５．議長選出、委員会開始、議事進行	議長（舟山委員）
	６．自己評価結果の解説とその評価の報告	
	教育重点項目	船山
	基準２　学校運営	君塚
	基準３　教育活動	杉浦
		丸山
	基準４　学習成果	井上
		大川
	・・・評価結果の判定（評価）・・・	
	基準５　学生支援	井上
		五十嵐
		杉浦
	基準６　教育環境	五十嵐
		内田
	基準７　学生の募集と受入れ	木村
	基準８　財務	長野
	基準９　法令などの遵守	内田
	基準１０　社会貢献＆地域貢献	木村
	・・・評価結果の判定（評価）・・・	
15:00	７．令和５年度教育重点項目	船山
15:10	８．意見交換	
15:30	９．全体会終了	
15:45	10．分野別分科会（企業・職能団体委員） 分野ごとに対面及びオンライン会議システム（Zoom）を利用し実施	
17:00	11．分野別分科会終了	

1. 全体会自由意見

自由意見：

自己点検評価の評価（適正・不適正）終了後、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。次年度の学校運営や教育活動に直接的、間接的に反映できる意見も多々あり、以下にその記録を報告する。

【（企業／ゲーム）株式会社ファンコーポレーション　井沢様】

何度も参加させてもらっていますが、相変わらず細かいところまで丁寧に取り組まれており素晴らしいと感じております。ゲーム開発業界は、近年状況が大きく変わってきていると感じています。それに伴って求めるニーズも変わってきているので、そちらも柔軟に捉えていただいて、方針の調整もしていただけるとより素晴らしいものになると感じました。

【（企業／AI・モバイル）JTP 株式会社　伊藤様】

全体を通して評価は適切だと思います。自らを律する姿勢というのをいつも拝見させていただいており、素晴らしいと思っています。受け身ではなく能動的に学校を改善していこうという姿勢も素晴らしいと思っています。引き続き期待をしていますのでよろしくお願いします。

【（職能団体／電子）一般社団法人組込みシステム技術協会　株式会社インフォテック・サーブ　米井様】

いつも評価はきちんとされていて毎回素晴らしいと思っています。評価項目や評価シート自体には文句はありませんが、委員を長くやっている中で「4：適切」の評価が増えてきており、「4：適切」となった項目がそこから評価がずっと変わらないということがあるのか、どうなのだろうかと感じました。また、その項目について毎年同じ評価をし続けることに意味があるのか疑問に思いました。その逆もあり、昨年は「4：適切」と評価したものの下がってしまった項目についても、もし今後あるようでしたら情報をいただければと思います。

【（卒業生）株式会社アプリケーションプロダクトソリューション統括本部　谷様】

就職率や資格取得率は学生のやる気が重要だと思っていました。文章等に起こせるような施策以外にも、対応する教員自身のモチベーションによる影響で学生のやる気も向上し、成果に繋がることがあると思っています。私自身も在学時にエネルギッシュな教員と接するとやる気が出たことがありました。毎年の評価内容や説明内容、説明している方を見ているとその点は問題なく、やる気もあり誠実に対応されていると感じています。

【（父母等）大山様】
いつも息子がお世話になっています。昨年に引き続き評価委員をさせていただいております。昨年と同様に全方位に死角がないような取り組みを見せてもらっているため、言うべきことはありません。息子が 2 年生になってから就職活動に顔を引きつらせながら必死に取り組んでいます。どうなるか様子を楽しみに見ています。先生方からも非常に強い支援（プッシュ）があるのだろうと感じています。結果がどうなるかわかりませんが、学校の皆さまには感謝しています。

【（在学生）水山様】
4 点お話させていただきます。1 つ目は「クラス委員」という組織についてです。令和 4 年度より「クラス委員」という制度が創設され、昨年度より私も活動していますが、昨年度実施していた「クラス委員の定例会」を今年度は実施しないのか疑問に感じました。2 つ目は「証明書 Web 発行サービス」についてです。学生の立場としては、いつでも証明書を発行できること非常にありがたいサービスだと感じています。利用する中で、導入されて間もないので仕方ありませんが、利用方法やマニュアルが不足していると感じています。利用者である「学生」と管理者である「学校」で意見交換を行い、さらに利用しやすいものに進化できれば良いのではと思っています。3 つ目は「防災」についてです。昨年、新宿区の警察署主催の防災ボランティアの講演会に参加させていただきました。その活動記録が成績証明書に記載されることで、そういった活動に積極的に取り組んでいることが可視化され、またボランティアの知識も深めることができ、そして講演会主催者側も学生達に知ってもらえるという点から非常に良い取り組みだと感じています。4 つ目は卒業生の谷様も触れていました「学生のやる気」についてです。私自身も学習する中で先生方のエネルギッシュな部分は非常に大切だと感じています。その中で日々、良い環境で学習させてもらっていると感じています。

【（企業／電気）株式会社横浜環境デザイン　舟山様】
水山様から「防災」についてお話がありました。九州では豪雨の影響で地震や洪水等が起きています。様々な災害が起きる中で、学校は人がたくさん集まる場所なので、学生や職員の命を守るための防災は非常に重要だと感じています。今後も継続していただきたいです。総論としましては皆様のご意見のとおり、毎回改善を繰り返し、バージョンアップされていますので、これをずっと続けていただきたいと思っています。

2. 分野別分科会

分野別分科会は、以下の次第に従い、各学科の教育内容について、企業や業界団体の委員より評価を受けることを目的として行っている。同時に、業界の動向や最新事情などの収集や人材育成に関する意見交換などを積極的に行っている。

【次第】

１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和４年度の教育活動に関する報告
　・就職状況
　・休退学・進級卒業の状況
　・目標資格の取得状況
　・各種教育活動の状況
　・コロナ禍対応
　・教育課程編成委員会の意見の活用状況　等
３．意見交換
４．その他

【分野】

① 情報分野分科会
② ネットワーク・セキュリティ分野分科会
③ ビジネス分野分科会
④ 電気分野分科会
⑤ 電子分野分科会
⑥ ゲーム分野分科会
⑦ アニメ分野分科会
⑧ デザイン分野分科会
⑨ CG・映像分野分科会
⑩ モバイル・AI 分野分科会

令和５年７月 10 日

第１回学校関係者評価委員会 分野別分科会　議事録

開催日時：　令和５年７月 10 日（月）15：45～17：00
場　　所：　オンライン会議
分　　野：　情報分野
学　　科：　情報処理科、情報システム開発科、高度情報処理科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）渡邉　登　　合同会社ワタナベ技研
代表取締役

（合計１名）

②日本電子専門学校
蓮見　圭亮　　情報処理開発科　学科長
柳橋　宏樹　　情報システム開発科　学科長
糠盛　創　　高度情報処理科　学科長

（合計３名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和４年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・休退学・進級卒業の状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況
・コロナ禍対応
・教育課程編成委員会の意見の活用状況

３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　令和４年度の教育活動に関する報告について
＜質疑、意見＞
（就職について）
・ベンチャー志向の学生が増えてきているとあるが具体的にはどれくらいの割合か？
1,2 割程度で、学生バイトなどをきっかけにというわけではなく、直接就職や paiza などをきっかけにして就職しているようである。
・大手志向ではなくなっているとのことだが、学校としては実績を残す意味でも大手にも決まると良い。

（休退学・進級について）
・コロナ感染症の影響で、休退学のなかにもコロナ後遺症というのがあるのかもしれないため、体調不良を理由とする退学については、コロナの罹患との関係があるかどうかについても確認したほうが良いと思う。

（目標資格について）
・資格の合格率がもう少し上がってくると良い。
・コーディングのスキルに関するオンライン資格の活用も良いかと考えている。
・基本情報のアルゴリズムは必須になっているのでしょうか？
４月からの制度改定で、科目Ｂ試験ではアルゴリズムが必須となっている

（教育活動について）

・C#⇒JavaScript への切り替えについては、育てるべき人材像が何かを軸に考えると良い。
　フロントエンドに強い人材を育てたいのか、バックエンドに強い人材を育てたいのか。
・学生時代の限られた時間の中で、１本主軸となる言語・技術について学んだうえで、派生（枝葉）として様々な経験ができるようにするとよいと思う。
・C#の良いところは、MS の教育機関向けの優遇があるということと、最終的にはクラウド技術（Azure）にまで繋げられるところ。
・学生の尖った所を伸ばすような取り組みができると良い
・基数変換のようなところについては、エンターテイメント的な仕組みや、e-ラーニング的に学習できるようなものがあると良い。

（その他）

・学生募集の状況はどうでしょうか？
　情報処理の分野については昨年度も定員となっており順調である

ま と め:　各学科での就職、学生の状況、資格、教育活動について、様々なご意見を頂きました。委員からのコメントの中で、学生が「これ面白い！できた！」というような「素敵な勘違い」を体験させてあげられると事が重要というご意見が印象的でした。本分科会で頂いたご意見をもとに各学科での教育活動に活かして参ります。

以上

令和５年７月 10 日

第１回学校関係者評価委員会 分野別分科会　議事録

開催日時：　令和５年７月 10 日（月）15：45～16：45
場　　所：　オンライン会議
分　　野：　ネットワーク・セキュリティ分野
学　　科：　ネットワークセキュリティ科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）相原 弘明　ストーンビートセキュリティ株式会社　セキュリティ技術部　統括責任者
（合計１名）
②日本電子専門学校
姜　　怜和　　ネットワークセキュリティ科　学科長
（合計１名）

次　　第：
１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和４年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・休退学、進級・卒業の状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況(特別活動、プロジェクトなど)
・教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議題１　令和４年度の就職状況および目標資格の取得状況について
＜意見＞
・業界で求めているスキル向上に伴う資格取得者の増加、取得資格種類の多様化になっていることは引き続き指導してほしい。
・就職状況は昨年に続き２クラスとも 100%達成だったことは業界の人材不足や大卒より即戦力である専門卒を望んでいることを再認識した。

議題２　令和４年度の休退学、進級卒業の状況について
＜意見＞
・ドロップアウト率について、メンタルや自ら考え行動するといったところに欠けていることや任されたことを最後までやり遂げないのは学校だけではなく、企業の悩みであることが分かった。
・社会としてどのように対応するべきか課題として残る。

議題３　令和４年度の各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
＜意見＞
・積極的に複数の外部競技大会へ参加し、よい成績をおさめていることについて、引き続き指導をしてほしい。
・そういう場に出場するだけで、出場学生の自信につながり、社会人になっても成長ができるよい機会になると思うので次年度も積極的に参加してほしい。

議題４　教育課程編成委員会の意見活用状況
＜意見＞
・「サーバセキュリティ」のカリキュラムにおいて、今年度後期授業で使用するため、最後の仕上げを９月上旬までにする。

ま と め:　ドロップアウトを改善のために、学科内の情報共有や学生交流など対応策を考えていく必要がある。外部競技大会へ参加について、引き続き指導を続けることやこれから増えてくる新しい技術についても教員が知識を身につけて行く必要を感じる。本大会にとどまらず、次年度以降も幅広く外部大会に参加させることができるよう運用していくことが必要である。
国内での関心度が高まっているセキュリティ業界のインターンシップについて、情報共有を行い学科としてどう活用すべきかを工夫する必要があると考える。

以上

令和５年７月 25 日

第１回学校関係者評価委員会 分野別分科会　議事録

開催日時：　令和５年７月 10 日（月）
※学校関係者評価委員ご欠席のため開催せず、後日書面にて実績報告を行い、意見を頂いた。
場　　所：　－
分　　野：　ビジネス分野
学　　科：　情報ビジネスライセンス科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（団体）原　洋一　　一般社団法人ソフトウェア協会
理事　事務局長

（合計１名）

②日本電子専門学校
谷口　英司　　情報ビジネスライセンス科　学科長

（合計１名）

次　　第：　１．昨年度の教育活動実績報告　※書面により報告
＊就職状況、休退学、進級・卒業の状況、目標資格取得状況、各種教育活動の状況、教育課程編成委員会の意見活用状況　等
２．意見交換　※書面により意見聴取
３．その他

議　　事：

議題１　昨年度の教育活動実績について

（１）就職状況

ビジネス分野（情報ビジネスライセンス科）就職率

クラス	在籍者	卒業者	就職希望者	就職内定者	就職率
21JL	19	19	18	17	94.4%

※卒業直前に企業都合による内定取り消しがあり、３月末時点では上記数値である。
（4 月に就職が決定した。）

＜意見＞

晴らしい就職率ですね！

（２）休退学、進級・卒業の状況

ビジネス分野（情報ビジネスライセンス科）

クラス	当初在籍者	年度末在籍者	退学者	休学者	進級・卒業率	退学率
21JL	20	19	1	0	95.0%	5.0%
22JL	18	13	5	0	72.2%	27.8%

＜意見＞

５名の退学者はどのような理由かがわかりませんが、コロナで自宅学習が増え、精神的に問題を抱えたのではないですか？企業もメンタル面でのトラブルが多くなっています。
社会に出てからも問題が起きないように何らかの手立てを考えたほうが良いかもしれませんね！

（３）目標資格の取得状況

MOS(Word)

クラス	在籍者	受験者	取得者	取得率（受験者）	取得率（学生数）
22JL	14	14	14	100%	100%

MOS(Excel)

クラス	在籍者	受験者	取得者	取得率（受験者）	取得率（学生数）
22JL	13	13	13	100%	100%

＜意見＞
在籍中の方の取得率 100%は良かったと思います。

（4）各種教育活動の状況
昨年度の主な実績
第 13 回文書デザインコンテスト（主催：日本情報処理検定協会 後援：文部科学省）
・審査員特別賞
冨江　春香さん　「未来のために今日からできること」
参考 URL
https://www.goukaku.ne.jp/contest_13_kekka.html

＜意見＞
素晴らしい！引き続き、このような取り組みを進めてほしいと思います。

（5）教育課程編成委員会の意見の活用状況
＜意見＞
とても活発に議論があったことと思います。現在、我々の業界でも人手不足でありますが、ただ単に人がいれば良いというわけではありません。ユーザー企業側でも DX 人材すなわち業務を遂行するにあたり、
デジタルをどのように活用すれば、どのような改善ができるか、あるいは人手を必要とせず、業務が進められるかなど創造できる人材が必要です。特に情報ビジネスライセンス科では、そのような目的をもって学んだ学生が入社後即戦力になってもらえるよう取り組みを希望します。

（6）その他、ご意見、ご要望等
IU は起業を目指す専門職大学ですが、うまく連携を取っていただき仕事に直結できる人材の育成を専門学校でもお願いしたいと思います。

ま と め:　今回は業務の都合でご欠席となったが、後日書面にて意見を伺った。
伺った意見は、今後の学科運営にとって参考になるものであったので、今後の検討課題とし、反映を目指していく。また必要に応じて、教育課程編成委員会での検討事項としても取り上げる予定である。

以上

令和５年７月 10 日

第１回学校関係者評価委員会 分野別分科会　議事録

開催日時：　令和５年７月 10 日（月）15：45～16：45
場　　所：　オンライン会議
分　　野：　電気分野
学　　科：　電気工事技術科、電気工学科、高度電気工学科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）舟山　大器　株式会社横浜環境デザイン
PV 事業部　営業戦略室　室長

（合計１名）

②日本電子専門学校
高橋　俊幸　　電気工事技術科　学科長
山路　哲平　　電気工学科・高度電気工学科　学科長

（合計２名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和４年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・休退学、進級卒業状況
・目標資格
・コロナ禍対応（教育活動、特別活動、プロジェクトなど）
・教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　令和４年度の教育活動報告について
＜意見＞
・昨年度の教育課程編成委員会の意見をうまく活用できているとご意見いただいた。

議題２　就職状況について
＜意見＞

学科	人数	就職率
電気工事技術科	34 名	100%
電気工学科	22 名	100%
高度電気工学科	10 名	100%

・コロナ禍の中でも安定して就職できている点を評価いただいた。
・創エネ、畜エネに関する需要も益々高まっているため、学生の進路の選択肢として入れると良いと意見をいただいた。

議題３　ドロップアウトの状況

＜意見＞

学科・クラス		年度初期人数	年度終了時人数	ドロップアウト理由
電気工事技術科	20KK	24名	23名	・進路変更（電子科に転科）
	21KK	36名	34名	・心的病気療養（1名） ・別業種に就職（1名）
高度電気工学科	20KZ	10名	10名	―
	21KZ	10名	10名	―
	22KZ	14名	12名	・進路の見直し（2名） -別業種へ挑戦
電気工学科	21KJ	23名	22名	・進路の見直し（1名） -退学後就職
	22KJ	25名	22名	・進路の見直し（3名） -退学後就職（2名） -別業種へ挑戦（1名）

・休退学の理由はいずれも仕方ない内容で、対応も十分実施しているとご意見いただいた。

・学校全体としては退学者の数が増えているので、学生に寄り添ってできるだけ前向きに学業に取り組めるよう支援すると良いとご意見いただいた。

議題４　資格の取得状況

＜意見＞

学科・クラス		第二種電気工事士	第一種電気工事士	第三種電気主任技術者※1
電気工事技術科	21KK	―	18／34名，54.5%	―
	22KK	―	3／14名，21.4%	―
高度電気工学科	20KZ	―	9／10名，90.0％	1／10名，10.0％ （3／10名，30.0％）
	21KZ	―	7／10名，70.0％	1／10名，10.0％ （2／10名，20％）
	22KZ	―	10／12名，83.3％	0／12名，0％ （5／12名，38.5％）
電気工学科	21KJ	21/22名，95.5％	16／22名，72.7％	6／22名，27.3％ （9／22名，40.9％）
	22KJ	13/22名，59.1％	8／22名，36.4％	1／22名，4.5％ （4／22名，18.2％）

※1　括弧内は科目合格者数

・十分な実績を出せているため、今まで通りサポートを続けていくのが良いとご意見をいただいた。

議題５　コロナ禍における各種対応

＜意見＞

・教育活動と学生の安全衛生を考慮した上で、教育上最適にオンラインと対面授業の比率を考えると良いとご意見いただいた。

・企業連携授業と特別活動も感染対策に十分配慮しつつ、可能な範囲で計画すると良いとご意見いただいた。

議題６　その他

・今後学ぶべき題材として、ペロブスカイト太陽電池を取り組んではどうかとご意見いただいた。従来のシリコン系と化合物系と並行して学べるよう、授業内容を検討することとした。

ま と め:　専門教育に加えて資格取得や就職面など、学生に対して十分な教育ができていると前向きな意見をいただいた。学生一人一人が前向きに専門知識を身に着け、専門知識や資格、社会性を獲得できるよう、満足度と学習成果を高めることが重要だと改めて感じた。

以上

令和５年７月 30 日

第１回学校関係者評価委員会 分野別分科会　議事録

開催日時：　令和５年７月 10 日（月）15：45～16：45
場　　所：　オンライン会議
分　　野：　電子分野
学　　科：　電子応用工学科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（団体）米井　翔　一般社団法人組込みシステム技術協会
研修副委員長

（合計１名）

②日本電子専門学校
仲田　英起　　電子応用工学科　科長

（合計１名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和４年度の教育活動に関する報告
・休退学、進級・卒業の状況
・就職状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・教育課程編成委員会の意見活用状況
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　令和４年度の教育活動報告について
＜意見＞
（就職状況および休退学、進級・卒業の状況）
・状況の報告を行い状況の確認を行なった。
・募集について最近の流れでは動くものを動画で見せるなど興味を引く様な対策が必要ではないか。学科の特徴として AI や DX などもキーワードとして持てればよかった（他校などでは例があるとのこと）。今の子は IT などワードの方が受けは良い様である。
・他校の事例でも電気電子は募集が不調である。大学などでも同様の傾向があるとのこと。
・楽しいとかでは他の分野に負けてしまうので、別のアプローチ（例えば将来が安全安心や個人の性格に訴求するのがよいのではないか。）
・他校の事例では ChatGPT やメタバースなどに踏み込んだ例もあり。

（目標資格の取得状況）
・ここ最近の状況について意見交換を実施した。
・全体会での募集活動に関連した質問
高校等ガイダンスでの状況はどうか
他部署も募集活動にいくのかどうか
電子系の募集パスはどうなっているのか　など
・電子応用での現在の募集活動
・高校生にイメージがつきにくいので、インタビューなどイメージに繋がりやすいコンテンツを今以上に増やしたらどうか。（電気電子系はイメージがつきにくい）
OC や SNS（広報の担当者が実施している件）などを報告した。

（各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど））
プロジェクトについて
・ゲームショウ VR プロジェクト、マイクロマウスプロジェクトなどの報告を行なった。

・意見として、ETロボコンなどは卒業製作のテーマなどにして蓄積をする様に取り組んでもいいのでは。また今年度のEVカートについても報告を行なった。日本の学生向けには映えるものを出して、海外の留学生向けには技術的な側面で訴求できるようである。

特別活動について

・コロナでリアル参加ができていなかった展示会などの見学会について業界を知る意味では実施したほうがよい。今年度は一般参加も復活してきている。

・EdgeTech展（旧ET展）では今年も業界セミナーなどを企画しているため、就活生に対して、業界を知る良い機会として使えるのでないか。

（教育課程編成委員会の意見活用状況）

・活用状況をご報告して、特に問題がないことが確認された。

その他

＜意見＞

・（業界関係の話題として）部品類の調達性などについての動向などの情報を得た。

・業界団体としては教育に興味があるので連携を模索したいという情報をいただいた。

ま と め:　状況を報告して概ね方向性等は問題ないことが確認できた。採用状況や昨今の電子部品の調達状況などの業界の動向を伺うこともできた。これらの情報は今後学生の就職指導などに役立てていきたい。また現状のカリキュラムについての学科の考えは業界の方向性にあわせても問題がないことが確認できたため、業界で必要な要素技術を抑えつつ基礎基本をしっかり教育できるようにしていきたい。

以上

令和５年７月 16 日

第１回学校関係者評価委員会 分野別分科会　議事録

開催日時：　令和５年７月 10 日（月）15：45 ～ 16：45
場　　所：　オンライン会議
分　　野：　ゲーム分野
学　　科：　ゲーム制作研究科、ゲーム制作科、ゲーム企画科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）井沢　祐　様　　株式会社ファンコーポレーション
企画デザイン部マネージャー

（合計１名）

②日本電子専門学校
松島　秀夫　　ゲーム制作科　学科長
栗原　央道　　ゲーム制作研究科　学科長
伊藤　靖彦　　ゲーム企画科　学科長

（合計３名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和４年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・休退学、進級・卒業の状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・教育課程編成委員会の意見の活用状況
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題　令和４年度の教育活動報告について

＜報告 / ゲーム制作科＞
ゲーム制作科は昨年度より内定率向上。企業の採用意欲の高さが伺える。学生の動きは良かった。ゲーム業界への内定率は低い。学生は給料で決めているケースが多い状況。また作品ができない事が課題である。

＜意見＞
ゲーム制作科の就職先は、学習した内容で就職（プログラマ）しているため評価できる。ゲーム業界への就職については、２年制だと作品制作は大変だが、向上できるように作品制作の指導をして頂きたい。

＜報告 / ゲーム制作科＞
令和５年度の現時点で休退学者が４名。６月末のデータで 85％未満の学生は４名。昨年の休退学理由に友達ができないとの話があったため、オンライン授業だったH.R.等を登校に変更。週３オンラインから週２オンラインに変更。さらに実習のグループ分けを廃止。（現状友達ができないといった理由でのドロップは無い。）教員間での情報共有を強化。学生の状況について共有ファイルを使って状況を直ぐに確認できるようにした。１限目の授業において欠席者が居た場合は、空いている教員が電話連絡を行う。

＜意見＞
ドロップアウトに対して、運用が改善されている事は、非常に良い。コロナ禍だからこそコミュニケーションの機会を増やす事は効果的だと思う。教員間の情報共有も、引き続き徹底してほしい。

＜報告 / ゲーム制作研究科＞
ゲーム制作研究科では一昨年度から取り組んでいる、学生へ密なコミュニケーションをとる指導に変更したことで、ドロップアウト率が減少している。

＜意見＞
ドロップアウト軽減に繋がったことは評価できる。このまま継続して頂きたい。
＜報告 / ゲーム制作研究科＞
ゲーム制作研究科での対外的な活動として「TV ドラマへのコンテンツ提供」「外部企業実施の授業」など、学生のゲーム作品を提供している。
＜意見＞
学内で終わるのではなく、外部へ作品を見せる機会は、非常に良い。今後も積極的に取り組んでほしい。

＜報告 / ゲーム企画科＞
令和 4 年の就職率は 95.5%（在籍 33 名）。内訳はエンターテインメント業界 14 名（ゲーム 11 名、映像 2 名、アニメ 1 名）、IT 業界 5 名、営業・販売 6 名、帰国 3 名、進学 3 名、未就職 2 名。在籍数が少ないため、細やかな指導が出来た事が、エンターテインメント業界へ内定している要因だと思う。しかし、現状よりも向上すべくカリキュラム変更などをして対応中。
＜意見＞
多くの学生がゲームへ進んでいる事は良い、学習内容を踏まえて、IT や営業等へ進んでいる事も評価できる。それ以外の業界へ行く学生が、ゲームを諦めない様に指導を続けてほしい。

＜報告 / ゲーム企画科＞
ドロップアウト対策は、改善している状況。例年 10 名以上の退学状態だったが、1 桁に改善。各科目に複数名の教員を配置、学生の課題状況や相談しやすい環境を構築。非常に効果があり、退学者を減少させる事ができた。出席率も向上しており、ここ数年で改善することができた。
＜意見＞
多くの教員が、学生状況を把握する事は良い。相談しやすい環境があることも評価できる。引き続き、ドロップアウトが減少出来る様に指導してほしい。

＜報告 / 3 学科共通＞
質保証に対する資格の取得については 3 学科共に教員が 100%取得を目指している。不合格の学生に対しては、繰り返し受験をさせるなど徹底したため、取得率は、ほぼ 100%（取得しなかった学生は、結果的に休退学者）
＜意見＞
資格取得に対して、積極的な取り組みと姿勢は非常に良い。今後も継続して進めてほしい。

その他　ドロップアウト対策に関しての意見交換
・アフターコロナではあるが、体調不良等病気による退学者が多くなってきたことが気になる。
・高校在学から本校入学までの経緯として、本来体験できることができなかった事がファクターとしてあるのではないか？（各種イベント・郊外活動・社交の機会がロスト等）
高校側も認識し危惧していること等､意見交換も実施した。

ま と め:　ゲーム業界を早期にあきらめる、勉強の仕方がわからない学生などの対策が必要。特に、ゲーム業界へ就職させるために作品制作をさせること（その仕組み・機会を増やす等）を検討する必要がある。業界でも評価基準が曖昧な事もあるため、学校としては大変だと思うが、引き続き学生指導を頑張ってほしいとの話題が挙がった。また、コロナ禍で減少してしまったコミュニケーション機会を増やすこと。成長過程において得てくる自信など身に付けさせる必要があるものが多すぎるが、ポイントを絞りつつ、着実に身に付けさせていくことも検

討していく必要があるとも話が出た。現状の取り組みは、良い方向へ進んでいるからこそ、より一層のよい成果が出るように、頂いた意見を踏まえて今後に活かしていきたい。

以上

令和５年７月 11 日

第１回学校関係者評価委員会 分野別分科会　議事録

開催日時：　令和５年７月 10 日（月）15：45～17：00
場　　所：　日本電子専門学校　７号館５階 752 教室
分　　野：　アニメ分野
学　　科：　アニメーション科、アニメーション研究科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）鈴木 周佑　様　　株式会社ぴえろ　人事総務部

（合計１名）

②日本電子専門学校
坪井 翔　　アニメーション科　学科長
五十嵐 淳之　　アニメーション研究科　学科長

（合計２名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和４年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・休退学、進級・卒業の状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・教育課程編成委員会の意見の活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：　令和４年度の教育活動に関する報告

議題１　就職状況について
＜意見＞
・両学科ともに約 88％の就職率だが、業界就職率はどの程度か？
→　内定者の７～８割がアニメ業界、CG 関連業界に就職している。アニメ分野は　以前より、業界就職率が高い。
・しっかり業界に就職できているようでよかった。

議題２　休退学・進級・卒業状況について
＜意見＞
・この数字（休退学者数）は「まずまず」ではないか。
・ドロップアウトの最終ゴールは「ゼロ」なのか。企業としては「一定数がリタイアするのは当然」とも考えているため、「もっと何とかしなければ…」とは思わないのだが、どうか。
→　健康、家庭事情など、学校側の努力では防げない理由による退学もあるため、それ以外については極力ゼロになるよう努力している。また体験入学等で、入学前のミスマッチをなくす努力をしている。
・企業側も、入社前にミスマッチを減らすことに注力している。会社説明会の担当者により、入社後のミスマッチの数に如実に差が出ることを確認している。
・学校の教育次第では、入社時の職種にマッチしなかった場合「別の仕事（職種）なら考えられる」という人が増えるかもしれない。学校内で、様々なキャリアに対する可能性を感じさせるような工夫があるといい。
→　作画志望の学生に「背景の課題もよくできていた。背景の仕事はどう？」と聞いても「いや、色が苦手なので…」等、避ける学生も多いのが現状。指導を工夫したい。

議題３　目標資格の取得状況について

＜意見＞

・色彩検定の取得者は 3～4 割くらいと想像していたが、６割は「多い」と感じた。監督、プロデューサーを目指す学生は取っておいて損はない資格である。

・目標資格にバラエティはあってもよいと思う。CLIPSTUDIO 検定、パース検定、アニメーション制作系の検定などが選択肢に入ってくるかもしれない。授業に関連していない資格については、すぐの対応が難しいかもしれないが検討してはどうか。

→　「デジタル作画」の授業で、CLIPSTUDIO 検定が取得できるくらいの範囲を入れてシラバスを組めば対応できるかもしれない。検討してみる。

・就職活動が始まると資格取得に向けた対応が難しくなる。取得させるのであれば１年次に対応した方がよい。

・資格はキャリアアップ、転職にも役立つはずなので、もう少し意識させてもよいと思う。

議題４　各種教育活動の状況（特別活動・プロジェクトなど）について

＜意見＞

・ポートフォリオを見せることに抵抗がない学生が割と多い印象、いい傾向である。

→　講評会開催前に 3 回ほど、HR 内で「クラスメイトに作品を見せ合う、お互いに褒め合う」ことを実施、作品を見せ、評価を受けることに慣れさせる試みをしたところ、ポートフォリオ講評会で厳しい意見を言われても、耐性がついていたようである。

・企業としての対応の仕方、学生に対してどこまで言ってよいのかが難しい。改善点の提示が中心で、正直すぎることを言ってもダメなことは分かるが、人に見せる前に「本当に自分で確認したのか？」と言いたくなるケースもある。自分で引っかかっている作品をポートフォリオに入れるべきではない。

・卒業制作の中で、自分の担当箇所を説明できていない学生が比較的多い印象。もっとぐいぐいアピールしてもよいのではないか。

→　時間がかかっているためか、作画系の学生はしっかりアピールする傾向があるが、撮影の学生などはあまりうまくアピールできていないかもしれない。「人に用意してもらった素材」という意識があるのかもしれない。

・撮影希望者で「友達に素材を作ってもらったんですけど…」と申し訳なさそうに話す学生もいるが、そういった仕事なので気にする必要はない。

・撮影は 2 名ほどよい学生がいた。直近で採用したのが 4 年前、世代間のスパンが空いてしまうので、学生が希望してくれるようであれば、ぜひ声掛けをしてほしい。

・作画では４名ほど気になる学生がいた。（別途、学校側に連絡をしていただける予定）

・制作進行職については現状、履歴書の文面のみで合否を判断しており、応募者の６割ほどを落としている。

・いい評価に対する苦手意識のある学生もいる（目立ちたくない、埋もれていたい）。表現者を目指しているはずなのになぜ、と疑問に感じる。自分の中で完結するものがよいのであれば、仕事にしなくてもよい。

議題５　教育課程編成委員会の意見活用について

＜意見＞

・CLIPSTUDIO への完全移行でよいと思うが、現場レベルでは Stylos を使っている会社もまだまだあるらしい。たとえば旭プロダクションは、社内のプロセスが決まっているため現在も Stylos を使用している。

・デジタル先発企業だと社内ルールが決まっているので、かえってツールの移行がしづらいかもしれない。デジタル後発企業の方が CLIPSTUDIO を採用しやすいようである。

・3D はアニメ制作において「使われるのが当たり前」になっている。アニメーターだから 3DCG を知らなくてよい、というわけにはいかない。3D を学ぶことに関しては、アニメーターにとってはプラスになる。

・一方、CG は企業からの要求も高いため、大変だと思う。

その他

【若手社員の傾向について】

・アニメーターの退職理由の多くが「自己評価と実際の評価に開きがある」こと。自分が考えているよりも会社からの評価が低い、注意されることで精神を病んでしまう等。自分の作品を見せて評価されることに慣れている学生、作品にダメ出しをされることに耐性のある学生が望ましい。
・若手の退職理由に「質問したい時に先輩、上司がいない」といったものがある。裁量労働制が弊害になっているケースであると考えられるため、社内で状況を共有している。
・ホワイトすぎて辞めるケースもあるらしい（もっと働きたいのに…）。対応が難しい。
・「やりたいことがない」等、若い人たちの気質が変わりつつあり、企業としても向き合いづらい。説明会など、どこまで説明してよいのかが分からない。
・仕事が終わっていないのに定時で帰る研修生が増えた。自分の意志で残らない。強要すると残業になるので、指導担当には「強要はしてはいけないが、促してほしい」と依頼している。それでも状況が改善しない場合は、仕方なく「研修は 1 年間の予定だが、今のペースでは1年で終われないかもしれないよ？」と促すようにしている。
・自分の力を客観視できない人が増えた。自分が「できない」ことを認識できていない。

【学校の募集イベントについて】

・他校では、オープンキャンパスに企業が参加するケースも多い。産学連携をしていることをアピールできる、イコール業界就職率が高そう、と思わせられるのでは？入学者が微減ということであれば、日本電子でもそういった企画があってもいいのではないか。「こういった話をしてほしい」といったリクエストがあれば是非してほしい。
　→　本校でもかつては同様の企画を実施していた（業界セミナーを日曜日に開催、在校生が参加しつつ、募集イベント参加者も話を聞ける、というスタイル）。
　　コロナの影響で募集イベントが縮小され機会を失ったが、そろそろ復活も考えたい。
・リモートだと緊張感に欠けるので、やはり対面での実施がいい。

ま と め:　令和４年度の教育活動に関する報告に対して、高い評価をいただくことができた。特にポートフォリオ講評会は、企業にとっても採用に直結する有意義なイベントであることが再確認できたため、今後も継続して実施していくこととした。目標資格についても、学生の希望職種に関連する複数の資格をラインアップできるよう、今後も検討を継続することとした。
あわせて、若手社員の動向を多数伺うことができた。本校の教育内容をブラッシュアップするヒントも多数含まれているため、委員から頂いた意見を学科で共有し、教育の質向上を図るための検討を進めていきたい。

以上

令和４年７月 18 日

第１回学校関係者評価委員会 分野別分科会　議事録

開催日時：　令和５年７月 10 日（月）15：45～16：45
場　　所：　オンライン会議
分　　野：　デザイン分野
学　　科：　Webデザイン科　グラフィックデザイン科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）木下　幸弘　株式会社ジェイスリー　顧問
（合計１名）
②日本電子専門学校
小山内　靖美　　Webデザイン科　学科長
植田　誠一　　グラフィックデザイン科　学科長
（合計２名）

次　　第：
１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和４年度の教育活動に関する報告（Webデザイン科・グラフィックデザイン科）
・就職状況
・休退学、進級・卒業の状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：

報告１　令和４年度の教育活動報告について（Webデザイン科）
・休学・退学・進級・卒業状況
・就職状況（内定率、内定先、職種別内訳）
・目標資格取得状況
・学科の取り組み（コンテスト関連、競技会関連、展示会関連、その他特別活動）
・今年度の新入生について
・教育課程編成員会での意見の活用状況

報告２　令和４年度の教育活動報告について（グラフィックデザイン科）
・休学・退学・進級・卒業状況
・就職状況（内定率、内定先、職種別内訳）
・目標資格取得状況
・学科の取り組み（コンテスト関連、競技会関連、展示会関連、その他特別活動）
・教育課程編成員会での意見の活用状況

＜ご意見＞
・学生の就職活動が年々早まっているイメージがある。
・コロナ禍により学校行事の中止や縮小があったのは非常に残念だと感じる。
・ドロップアウトが多い。
・今後は大幅に留学生数が増加していくのでは。
・両学科共にコンテストや競技会等で結果を出せていることは教育内容にブレが無い裏付けになっている。

議題２　デザイナーの仕事の変化について
＜ご意見＞

・（株）ジェイスリーは、「Webデザイナー」「グラフィックデザイナー」などの肩書はない。肩書では語れない（語りきれない）時代になっている。
・グラフィックデザイナーだといってグラフィカルなことだけしますというのは説得力に欠ける。また、グラフィックデザイナーだからWeb関連はできませんというのも仕事がなくなる。
・大切なのは課題解決力。デザイナーの仕事はクリエイティブを通して課題解決をすること。

議題３　社員教育・人材教育について
＜ご意見＞
・社内では企業の人材戦略の一環として「リスキリング」が話題である。
・新たな分野や職務にて新しいスキルを習得できるためのしくみとして、若手から新人まで、学び合える文化をつくるために「勉強会」を頻繁にやっている。
・IT業界・Web業界で活躍できる人材になるには、デザイナーはデザインだけしていればいい。エンジニアはコーディングだけしていればいいという考え方では通用しないので、「ディレクションができる人材育成」に力を入れている。そのために、社員が個々に自分の将来像を描けるように、外部から専門の講師を招いて社員教育を強化している。
・社員一人ひとりのパフォーマンスの最大化が必須で、中堅社員には、現場を牽引していく立場としての活躍が期待して実施されている。

ま と め:　教育課程編成員会でのご意見も踏まえて、「ノーコード・ローコード開発」の活用について悩んでいる最中でしたが、木下様のご意見も伺って、学科で取り組む場合には、メリットやデメリットを考えながら、全授業でやるのではなく授業の使い分けが必要であり、最低限「触れる・体験する」は取り組むべきだと改めて感じました。産学連携授業の指針に関しても、業務のワークフロー、実務を学ぶのであれば最終的な効果予測や期待値までをも加味して取り組ませるべきとのご意見や、学年を超えた交流のきっかけに関しても具体的なアドバイスを頂けたことは今後の学科運営に関しての参考となりました。

以上

令和５年７月 16 日

第１回学校関係者評価委員会 分野別分科会　議事録

開催日時：　令和５年７月 10 日（月）15：30 ～ 16：30
場　　所：　331 教室
分　　野：　CG 分野
学　　科：　コンピュータグラフィックス科、コンピュータグラフィックス研究科、CG 映像制作科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）篠原 たかこ　様
公益財団法人　画像情報教育振興協会　教育事業部　事業部長
（合計１名）

②日本電子専門学校
永井 紀雄　CG 映像制作科　学科長
金 統一　　コンピュータグラフィックス研究科　学科長
岡野 正信　コンピュータグラフィックス科　学科長
（合計３名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和４年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・休退学、進級・卒業の状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・教育課程編成委員会の意見の活用状況
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題　令和４年度の教育活動報告について
＜報告＞
2022 年度の就職状況（内定先も付記）を報告。働き方改革で以前よりも改善傾向ながら引き続き残業が多い業界だが、就業時間などを気にする学生が増えてきている影響か、CG 関連企業以外の一般就職が多くなってきた点を報告。そして、学生の傾向が依然としてモデラー希望が多数ということについて、以前篠原様からグッドスマイルカンパニーなどフィギュア制作会社についてはいかがかとご提案いただいたことを受け、ソフビ原型を扱う株式会社キッズの見学会を近日中に実施予定であること等を報告。また、目標資格取得状況等の報告を行った。

＜意見＞
本校キャリアセンターの報告から「6 月末までで採用が終了する企業がある」ということについて、業界の状況を篠原様に確認したところ、「ゲーム会社の採用時期が早まっている。特に株式会社カプコンが早期に内定を出すので、大手のパブリッシャー・大手デベロッパーの採用時期が早まったのではないか」とのご意見をいただいた。
目標資格の取得状況について、今年度、コンピュータグラフィックス科の夏季集中講義「検定対策Ⅲ」（CG クリエイター検定エキスパート対策授業）にて、CG-ARTS 小澤賢侍様にご協力いただくことになったが、その CG クリエイター検定エキスパート検定の受験者数は現在増加しているものの、その受験者数を維持することは難しいというご意見をいただいた。（※CG 検定受験者数は、2015 年は１万 4000 人で、2018 年から増加となり、2022 年は２万人となっている。2023 年から減少に転じる予想がされている）
就職活動のリモート化が進み、地方の学生が東京の企業に多く採用されるのではないかという質問に対し、「個人での応募は増えているが、地方の学校の就職率は高くなっているわけではない」とのご意見をいただいた。

業界の傾向として、従来どおりCGアニメーターの需要が高い。また「アニメCG」の仕事が増えている。学生が興味を示さないのであれば、本校1年生に向けてアニメ業界のニーズの高さを伝えるセミナーを実施してもよいというご意見をいただいた。（サンジゲンの瓶子様であれば、自社目線ではなくアニメ業界全体の目線で話をしてくれる、リファレンスの大切さなども伝えてくれるとのこと）

ま と め:　今回も、企業の方はCG-ARTS篠原様のみのご参加となった。学科からは就職指導の現状等を報告し、篠原様からは最新情報をご意見としていただいた。
業界就職率が低下傾向にあるため、アニメCGに関するセミナーを企画する等、いただいたご意見を各学科の運用に活かしていきたい。

以上

令和５年７月 10 日

第１回学校関係者評価委員会 分野別分科会　議事録

開催日時：　令和５年７月 10 日（月）15：45～16：45
場　　所：　オンライン会議
分　　野：　モバイル・AI 分野
学　　科：　ケータイ・アプリケーション科、AI システム科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）伊藤　好宏　JTP 株式会社　グローバルビジネスオペレーション統括本部　技官
（合計１名）

②日本電子専門学校
大川　晃一　　エンジニア教育部　部長 兼 ケータイ・アプリケーション科　学科長
福田　竜郎　　AI システム科　学科長
二宮　洋介　　ケータイ・アプリケーション科　テクニカルチーフ（議事録）
石黒　元康　　AI システム科（議事録）
（合計４名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和４年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・休退学、進級・卒業の状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況(特別活動、プロジェクトなど)
・教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議題１　令和４年度の就職状況および目標資格の取得状況について
＜意見＞
・ケータイ・アプリケーション科はモバイルアプリ開発に特化した学科なので、モバイルアプリ開発のみの企業を目指すならばそれなりの技術力が要求されると思う。
・AI システム科の就職内定率 100%は素晴らしいと思う。
・ケータイ・アプリケーション科では資格の受験者が減ったとのことで、金銭的な事情もあるとは思うが、資格取得のメリットの説明を工夫してみてはどうか。

議題２　令和４年度の休退学、進級卒業の状況について
＜意見＞
・ケータイ・アプリケーション科では卒業時に提出課題を提出しない学生や課題のコピーなどがあったとのことであるが、学校としては適切であると思う。
・AI システム科では個別指導が必要な学生が多くなっているとのことであるが、何とか頑張ってほしい。最近の新入社員は目立ちたくないという傾向があるかも。しかし、その中でも率先して発表などする社員もいる。確かに、全体的傾向は目立ちたくない社員が多い傾向にはあると思う。

議題３　令和４年度の各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
＜意見＞
・外部コンテストへの参加や卒業制作発表会の取り組みは素晴らしいと思う。卒業制作発表会には是非参加してみたい。
・ケータイ・アプリケーション科の卒業制作物は動画も素晴らしく、アイデアが面白い。
・精鋭樹測定のアイデアはいいですね。すぐに利用できそうです。

議題４　教育課程編成委員会の意見活用状況

■ケータイ・アプリケーション科
＜意見＞
・「ケータイ」という名称より「モバイル」の方がわかりやすいと思います。問題無いと思います。

■AI システム科
＜意見＞
・DMBOK は理論的になりすぎないようにする必要がある。専門学校の学生は、データ処理や管理の技術などに興味のある学生が多いのではないか。
・AI の歴史についての授業時間が長いよりも、ChatGPT に代表されるような AI サービスをさわってみる時間を多くとってみるとよいのではないか。
・Power BI は使いづらいと思います。本格的な統計解析ソフトを使うのは良いと思います。

ま と め:　モバイル・AI 分野の分科会では、多様な学生が多く在籍する中、就職率および休退学の学科の対応については問題ないとの評価を頂いた。また、教育課程編成委員会での意見活用についても問題はないとの評価を頂いた。専門学校生には技術を持っていることが前提なので、AI システム科およびケータイ・アプリケーション科ともに学生に楽しんで勉強するようにしてくださいとのご希望があった。個別指導が必要な学生が増加傾向にあるが、細かな学習状況のチェック及びフォローの方法を模索してゆきたい。

以上